

日本映画放送株式会社 第 58 番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 29 年 7 月 25 日 (火) 15 時～16 時
2. 開催場所 : 東京都千代田区有楽町 1-1-3 東京宝塚ビル 15 階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 8 名 / 出席委員数 7 名
出席委員(順不同、敬称略) : 菊地 実・川本 三郎・坂井 保之・田保橋 淳・
曾根 和子・鳥居 美砂・西 正
欠席委員(敬称略) : 鈴木 嘉一

放送事業者側出席者 : 代表取締役社長	杉田 成道
常務取締役	佐藤 信彦
執行役員編成制作局長	宮川 朋之
編成制作部副部長	小川 英洋
編成制作部	三宅 歩
編成制作部副部長	樋渡 典英
番審担当	堤 靖芳
	清水 明(記)

4. 議題 (1) 審議事項 日本映画専門チャンネル
2017 年 7 月番組改編について
(2) 報告事項 時代劇専門チャンネル
「新作オリジナル時代劇ラインナップ発表会」について

5. 議題 (1) 概要

2018 年 7 月、日本映画専門チャンネル開局 20 年を迎えます。この節目を念頭に、今年 7 月に番組改編を実施しました。その狙いは「より観られるチャンネルへ」ということです。コンテンツの多様化は、今まで以上の視聴者にチャンネルへ接していただくことで、より素晴らしい映画を観ていただく、という最終目的へと結びつけて考えています。また今後日本映画専門チャンネルでも、積極的にオリジナル番組を製作していく予定です。

【審議ポイント】

- 改編の主旨はコンテンツの多様化により、「より観られるチャンネルへ」ですが、その狙いは視聴者に届くと考えますか。
- 今回の改編に、更に望まれることがあればお答え願います。

6. 議題(1)審議内容

- ・視聴習慣につながる番組表は、わかりやすいことが望ましい。今回の改編では、編成関係者がいう「縦と横の流れ」がすっきりし、編成方針はより明確になったと思われる。
- ・有料放送の場合、地上波と同じような視聴率のロジックはあるのか？ また、映画ではビデオ・オン・デマンド(VOD)が盛んになり、見たい作品を好きな時に好きな場所で見られるようになった。そんな中、編成の力がどこまで通用するのだろうかと疑問がある。
- ・日本映画専門チャンネルで視聴習慣をつけるのは難しいだろう。今回の改編は、視聴者に飽きられるのではないかと心配だ。また、アニメの放送があつてよいのではないか。
- ・テレビは“ながら見”するメディア。だから「週末“イッキミ”ドラマ」は、視聴者には嬉しい取り組みだと思う。「ひるの2時間サスペンス」は、時間帯が早すぎないか。新聞のテレビ欄に番組表の掲載がないと、改編に気付かない人も多いだろう。
- ・これまでは古い作品が並んでいても、見逃した人が喜んで見てくれた。しかし、開局20年を来年に控えているということは、宝の山をだいぶ切り崩してしまったのではないか。視聴者をキャッチする大胆な企画によるオリジナル番組が必要だ。
- ・ドラマが多いのはなぜだろうと不思議に感じていたが、釣りに喩えるなら撒き餌で魚を寄せる編成とわかり納得した。縦積み編成に威力があるのも実感している。
- ・映画好きの間で話題になったのが、DVD化されていない作品を放送してくれた「蔵出し名画座」。意外な作品を掘り起こした名企画が今回復活して大変喜ばしい。地方の映画ファンのためにも、これからも精力的に作品を掘り起こしてほしい。
- ・私は新編成に賛成だ。ノンフィクションは、地上波で優先的に視聴し、フィクションは、BS・CSで見るように私は使い分けている。有料放送を見る人の多くがそうではないか。今回の改編のように魅力的なレギュラー企画が増えるほど、専門チャンネルの比率が高まるだろう。ちなみに私は番組選択で新聞を見ることはなく、EPGばかりを利用している。

委員からの発言に対して、当社からの説明・回答は以下の通りであった。

- ・地上波で重視されるゴールデンタイムは、有料放送の場合チャンネルごとに大きく異なる。今回の改編にあたっては、より多くの映画を見てもらうために、他ジャンルの作品を戦略として編成した。
- ・観てもらおう映画を増やそうと、映画の放送本数を増やし、選択肢を広げるよう取り組んできたが、考え方を変えた。“ながら見”しやすいドラマを増やし、映画の告知機会を増やしたところ、映画の視聴機会が増え、満足度も増した。当チャンネルの視聴傾向は、VODより地上波等ほかの放送に影響を受けていると感じる。また、新聞について言うと、多くの新聞の中面に番組表が掲載されているが、終面はなかなか難しい。
- ・ライブラリ作品を、手を変え品を変えて編成してきたCS放送だが、オリジナル番組の必要性は感じている。20周年を念頭に、編成や企画を大きく変化させねばならない。

7. 議題(2) 報告事項

時代劇専門チャンネル 「新作オリジナルドラマ劇 ラインナップ発表会」について

今年、藤沢周平生誕90年、没後20年にあたり、時代劇専門チャンネルではスカパー!の協力を得て、〈藤沢周平心ドラマシリーズ 第二弾〉として短編集『橋ものがたり』から3作品を新たにドラマ化する。また、BSフジと協力して2015年から製作している北大路欣也主演『三屋清左右衛門残日録』シリーズの新作も製作することにした。そのラインナップ発表会を7月18日に帝国ホテルで開催。登壇者はドラマ出演者の松雪泰子、江口洋介、藤野涼子、田中奏生と、日本映画放送代表取締役社長にして番組の演出を担当した杉田成道監督。報道陣を前に、作品への思いや撮影秘話を披露し、多くの媒体露出が得られた。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、平成29年9月19日(火)15時より開催。